糖尿病治療に新たな光。マンジャロ導入で約8%が長年のインスリン注射から離脱。医療費抑制とQOL向上に期待。

MyMedipro株式会社
2026.01.14 16:13

美容・健康

マンジャロ導入で治療負担が大きく軽減 — HDCアトラスクリニックの臨床成績。約300人中25人がインスリン離脱し、週1回注射のみで血糖コントロール維続。

2型糖尿病治療において、長年にわたりインスリン注射を継続してきた患者が、新たな治療選択肢によって注射回数の大幅な軽減を実現している。HDCアトラスクリニックでは、オンライン診療DXを活用して、GIP/GLP-1受容体作動薬「マンジャロ」を導入した2型糖尿病患者約300人の治療経過を検討した結果、25人（約8%）がインスリン注射から離脱し、週1回の注射のみで治療を継続できていることが確認された。

毎日注射する生活から「週1回」へ

インスリン治療は、血糖管理において非常に重要な役割を果たす一方、毎日の注射、外出時の携帯・管理、食事や時間への配慮など、患者の日常生活に大きな負担を伴う治療でもある。

今回、HDCアトラスクリニックで確認された症例では、マンジャロ導入後、血糖コントロールが安定し、医師の慎重な判断のもとでインスリン注射を終了。現在は、週1回の皮下注射のみで治療を継続している患者が複数確認されている。

これにより、「注射の回数が激減し、精神的にも身体的にも楽になった」「外出や旅行の際の不安が減った」といった声も聞かれており、治療そのものだけでなく、生活の質（QOL）の向上が大きな特徴として挙げられている。

約300人中25人、数字が示す現実的な可能性

今回の結果で注目すべきポイントは、「全員が離脱できる」という非現実的な話ではなく、約9%という現実的かつ臨床的に意味のある割合で成果が確認されている点にある。

2型糖尿病は、慢患期間や併発疾患、体格、生活習慣などにより治療反応が大きく異なる疾患であり、すべての患者が同様の経過をたどるわけではないため、長年インスリン治療を続けてきた患者の一部が、注射回数を大幅に減らせたという事実は、治療選択肢の広がりを示す重要なデータといえる。

「血糖値」だけでなく「治療の続けやすさ」を重視

近年の糖尿病治療では、単に数値を下げることだけでなく、治療を継続しやすいか、日常生活に無理がないか、心理的負担が少ないかといった視点がより重視されるようになっている。

週1回投与という治療スタイルは、忙しい現代人にとって受け入れやすく、治療継続率の向上にも寄与する可能性がある。HDCアトラスクリニックでは、患者一人ひとりの病態や生活背景を踏まえたうえで、段階的・慎重に治療調整を行っている。

今後の糖尿病治療に示唆を与える臨床成績

今回の成績は、あくまで単施設での臨床経験ではあるものの、インスリン治療が"一生続くもの"と思われがちな患者に希望を与える、治療負担の軽減という新たな評価軸を提示するという点で、今後の糖尿病診療に一定の示唆を与える内容といえる。

HDCアトラスクリニックでは今後も、血糖管理だけでなく、患者の生活全体を見据えた糖尿病治療を重視し、臨床データの蓄積と発信を続けていくとしている。

今後の治療についてどう思いますか？

今回、インスリン注射から離脱、あるいは注射回数の大幅な軽減を経験した患者を対象に、今後の治療継続に関する意識調査を行った。

その結果、以下のような回答が得られた：
• 続けられる自信がある：21名（84%）
•少し不安がある：4名（16%）
• わからない：0名

多くの患者が、治療の見通しに対して前向きな意識を持っていることが示されており、注射回数の軽減や治療負担の低下が、心理的な安心感や継続意欲の向上につながっている可能性が示唆される。

一方で、一定数の患者が不安を感じている点も重要であり、今後も医師による丁寧なフォローアップと、個々の状況に応じた治療調整が不可欠であると考えられる。

医療費抑制と低血糖リスク低減への波及効果

さらに注目すべき点として、インスリン注射の離脱や注射回数の大幅な減少は、他の糖尿病治療薬全体の使用量や種類の削減にもつながる可能性がある。

インスリン治療を中心とした強化療法では、血糖変動に対応するため、複数の経口血糖降下薬や追加注射薬が併用されるケースも少なくない一方、週1回投与のGIP/GLP-1受容体作動薬によって血糖コントロールが安定すれば、併用薬の減薬・中止、処方内容の簡素化、通院回数や検査頻度の低減といった変化が生じる可能性があり、糖尿病診療にかかる医療費全体の抑制効果も期待される。

また、インスリン治療に伴う重大な課題の一つである低血糖リスクについても、改善が見込まれる。低血糖は、意識障害や転倒、交通事故などにつながるだけでなく、重症例では死亡に至ることもあり、医療安全上の大きな問題とされてきた。

インスリン使用量や注射頻度が減少することで、重篤な低血糖発作、低血糖に起因する事故や救急搬送、高齢患者における予期せぬ転倒・外傷といった事象が顕著に減少することが期待される。

これは患者個人の安全性向上にとどまらず、救急医療や社会的コストの軽減という観点からも、重要な意味を持つと考えられる。

書籍タイトル：「マンジャロ ― 糖尿病を治したい方がたへ」

医療経済の視点から見た社会的意義 — 日本の未来にとっての「明るい兆し」

こうした治療変化は、個々の患者の負担軽減にとどまらず、医療経済全体に対しても大きなインパクトをもたらす可能性がある。

糖尿病は日本における代表的な慢性疾患であり、診療費・薬剤費・検査費・合併症治療費などを含めると、社会保険医療費の中でも極めて大きな割合を占めている。

インスリン注射の離脱や注射回数の減少により、インスリン製剤そのものの使用量減少、低血糖対応のための追加受診・救急搬送の減少、合併症リスク低下による長期的医療費の抑制、多剤併用からの脱却による薬剤費の簡素化といった連鎖的な効果が生じる可能性がある。結果として、日本の社会保険医療費全体が中長期的に減少していくことが予測される。

現在、日本は急速な高齢化と医療費増大という大きな課題に直面している。そうした中で、「治療の質を高めながら、医療費の伸びを抑制できる可能性がある」という今回の臨床成績は、日本の医療制度の持続可能性という観点から見ても、非常に前向きで明るい話題といえる。

患者の生活の質（QOL）を向上させつつ、医療現場の負担を軽減し、さらに社会全体の医療費抑制にも寄与する――、こうした好循環を生み出す治療の在り方は、今後の日本の糖尿病診療、さらには慢性疾患医療全体の方向性を考えるうえで、重要な示唆を与えるものと考えられる。

書籍タイトル：「糖尿病克服宣言 Mounjaro ― 沢山の患者さんの驚きの声」

● HDCアトラスクリニック

院長：鈴木吉彦 (医学博士)

所在地：東京都千代田区一番町5番地3アトラスビル1階

主な診療科目：糖尿病内科 (2型糖尿病治療、インスリン離脱支援など)

公式サイト：https://www.hdc-atlas.com/

関連サイト：https://www.mymedipro.co.jp/ (MyMedipro株式会社)

活動内容：血糖管理のみならず、患者の生活全体 (QOL) を見据えた糖尿病治療を重視し、

臨床データの蓄積と発信を継続的に行っている。

企業担当者の連絡先を閲覧するには会員登録を行い、ログインしてください。
ログイン

種類	その他
カテゴリ	美容・健康

MyMedipro株式会社

URL	https://www.mymedipro.co.jp/
業種区分	サービス業
代表者名	鈴木吉彦
上場区分	未上場

この企業のプレスリリース

美容・健康
「メトフォルミンで痩せる」は本当か？
2026.01.22 16:14
MyMedipro株式会社

美容・健康
「リベルサスダイエット」の法的リスク―「痩せます」と言ってはいけない薬
2026.01.21 16:10
MyMedipro株式会社

美容・健康
Kindleから撤退し、全ノウハウを無料開放へ。「AIに選ばれるクリニックになるための「LLMO（AI検索最適化）」戦略
2026.01.20 15:56
MyMedipro株式会社

カテゴリ一覧

デジタル
ゲーム・ホビー
システム・通信
観光・レジャー
エンタメ
スポーツ・アウトドア
自動車・バイク
ホーム
ファッション
食・グルメ
美容・健康
ライフスタイル
金融・保険
広告・宣伝
交通・物流
エネルギー・環境
自治体など

【月間最優秀プレスリリース】MVP(Most Valuable PressRelease)を発表！

知っておきたいメディアに選ばれるプレスリリースの書き方を現役編集長が紹介

広告企画・マーケ資料を無料ダウンロード
掲載無制限のB2Bマッチングプラットフォーム